

NPO法人せんがまち 棚田 倶楽部



せんがまち
千 框 の棚田

千框の棚田は約 400 年前から耕作され、昭和 40 年頃には約 10ha、3,000 枚以上あった。しかし、農家の高齢化に伴い耕作放棄が進み、平成 10 年には 50a、100 枚程度まで棚田が減少。土砂崩壊防止などの多面的機能を維持するため、地元の農家有志が中心となり、耕作放棄された棚田の復活と地域の活性化に取り組み、現在 3ha、300 枚の棚田が耕作されている。



きくがわ
静岡県菊川市



せんがまち
千 框 の棚田
(昭和 40 年頃の写真)

〔土砂崩壊防止・景観の保全〕

厳しい地形条件のもと長年の営みにより維持されてきた棚田が、近年耕作放棄され崩壊の危機にあったが、活動団体が復活させ、日本の原風景を守っている。

〔生物多様性保全〕

棚田での耕作を継続し、また、ふゆみず田んぼに取り組むことで水辺にはニホンアカガエルやホトケドジョウ、畦畔には希少植物が確認され、多様な生物の生息場所となっている。

〔地域社会の振興〕

平成 23 年から棚田オーナー制度を導入し、都市住民を受け入れ、田植えや収穫作業等を通じて地元住民と交流が図られ、また大学と連携して保全活動を行うことで、農業農村体験、社会貢献の場となっている。



棚田のオーナー



棚田の畦づくり



連携する静岡大学



夏休みの生物教室